

第 6 期 雄武町総合計画 前期実施計画書兼事務事業評価調査

様式 1

No. 08010010

政策目標	2 【安心感の持てる福祉のまち・雄武】～保健・医療・福祉の充実～	会計区分	1 一般会計	【全体計画内容】※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	8 子育て・子育ての充実	事業優先度	B	
単位施策	2 地域ぐるみの子育て支援	政策事務分類	2 単独自治事務(個別計画)	
事業名	子育て支援拠点事業	見直し年度		
事業期間	平成30年度～平成34年度	担当課	8 保育所	
事業主体	雄武町	関係課	#N/A	
事業指標	遊びの広場利用者数、親子教室開催数、相談業務数、赤ちゃん訪問件数	関係課	#N/A	
事業目標	年間利用者数1,500人、親子教室120回、相談業務50件、訪問件数20件	関係例規・法令名	2 ソフト事業	
町民参加	有 子育てボランティア	関係個別計画名	有 地域子育て支援拠点事業実施要綱	
町民協働			有 雄武町子ども・子育て支援事業計画	

全体計画 事業内容		平成 30 年度 事業内容	平成 31 年度 事業内容	平成 32 年度 事業内容	平成 33 年度 事業内容	平成 34 年度 事業内容
計画 内容	育児相談、保育資源情報提供 あそびの広場、親子教室の開催 子育てサークル支援 保育児業等の積極的実施、普及促進の努力	育児相談、保育資源情報提供 あそびの広場 子育てサークル支援 特別保育児事業等の普及促進 こんにちは赤ちゃん訪問	育児相談、保育資源情報提供 あそびの広場 子育てサークル支援 特別保育児事業等の普及促進 こんにちは赤ちゃん訪問	育児相談、保育資源情報提供 あそびの広場 子育てサークル支援 特別保育児事業等の普及促進 こんにちは赤ちゃん訪問	育児相談、保育資源情報提供 あそびの広場 子育てサークル支援 特別保育児事業等の普及促進 こんにちは赤ちゃん訪問	育児相談、保育資源情報提供 あそびの広場 子育てサークル支援 特別保育児事業等の普及促進 こんにちは赤ちゃん訪問
	事業費(千円)	3,925	785	785	785	785
計画 事業費	財源内訳					
	国庫支出金	1,450	290	290	290	290
	道支出金	1,450	290	290	290	290
	地方債	0				
	その他	0				
一般財源	1,025	205	205	205	205	
実績 事業費	事業費(千円)	564	564	0	0	0
	財源内訳					
	国庫支出金	282	282			
	道支出金	282	282			
	地方債	0				
その他	0					
一般財源	0					
関連 事項	特定財源の名称					
	子ども・子育て支援交付金 北海道子ども・子育て交付金	【評価・実績】	(実施内容等) 育児相談(118件) 親子教室123回(利用者数1,918人) 開放日243日(利用者数1,597人) 赤ちゃん訪問(13件)※出生19件 関係機関との連携事業、特別保育事業 の積極的実施・普及促進の努力 ※事務事業評価結果	(実施内容等) ※事務事業評価結果	(実施内容等) ※事務事業評価結果	(実施内容等) ※事務事業評価結果
	第5期計画からの継続	年度目標値	利用者数3,800人、教室120回、相談50件、訪問30件	利用者数3,800人、教室120回、相談50件、訪問30件	利用者数3,800人、教室120回、相談50件、訪問30件	利用者数3,800人、教室120回、相談50件、訪問30件
		年度達成率	72%	0%	0%	0%
	後期計画への継続	全体達成率	14%	14%	14%	14%
		備考欄				

事業名	子育て支援拠点事業	評価者 管理職 職氏名	保育所長	大水 麻理
		評価者 作成者 職氏名	児童保育係	八重樫 聖子

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	子育て家庭	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	年間利用者数、親子教室開催回数								
【抱える課題やニーズは】	子どもの成長と生活リズムに合わせて家事と育児を行う中、自分の時間がもてないストレスや先の見えない育児不安を感じている母達が多い。 子どもの欲求も満たしながら、大人同士の関わり(つながり)を求めている。	指標(指標計算式/解説)	目 標 値 及 び 実 績 値								
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	子育てが家庭でのみ行なわれるのではなく、つどいの場を利用することで母達が相互支援、情報交換、助言を受けられる。また、関係機関が連携することで地域全体での子育て支援を目指す。	① 年間利用者数	<table border="1"> <tr><td>目 標 年 度</td><td>平成30 年度</td></tr> <tr><td>目 標 値</td><td>3800 人</td></tr> <tr><td>実 績 値</td><td>3515 人</td></tr> <tr><td>達 成 度</td><td>92.5 %</td></tr> </table>	目 標 年 度	平成30 年度	目 標 値	3800 人	実 績 値	3515 人	達 成 度	92.5 %
目 標 年 度	平成30 年度										
目 標 値	3800 人										
実 績 値	3515 人										
達 成 度	92.5 %										
【その結果、どのような成果を表現したいか】 ※成果=目的	人とつながることで親子共に充実した時間を過ごし、親は前向きに、子どもは健やかに育つ。	② 親子教室開催回数	<table border="1"> <tr><td>目 標 年 度</td><td>平成30 年度</td></tr> <tr><td>目 標 値</td><td>120 回</td></tr> <tr><td>実 績 値</td><td>123 回</td></tr> <tr><td>達 成 度</td><td>102.5 %</td></tr> </table>	目 標 年 度	平成30 年度	目 標 値	120 回	実 績 値	123 回	達 成 度	102.5 %
目 標 年 度	平成30 年度										
目 標 値	120 回										
実 績 値	123 回										
達 成 度	102.5 %										
【内容(どのような手段で何をを行ったか)】	仲良し親子教室、センター開放 育児相談、育児講座、連携事業 赤ちゃん訪問、普及促進活動	子どもは体験をととして成長のための刺激を受け、母は孤立しない安心感と充実感を得よう集団での活動と仲間づくりができる場所の提供を行った。 来所する親子との交流を通じて育児、子どもの発達、保育等の地域資源の活用についてなど相談業務を行った。保健係と連携して親が不安を抱える問題に着目し、言語聴覚士を講師に招いて育児講座を開催した。専門職の話聞くことで、子育てを前向きに捉える姿勢につながったといえる。 町広報やHPに情報を掲載する他、保健事業への参加、赤ちゃん訪問を行うことで早い段階から直接関わりを持ち、役割を認証して頂いた。町内すべての乳幼児・保護者と関わりをもつことで、関心をしめし気軽に利用できるよう促した。									

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

	<input checked="" type="checkbox"/>	義務的なもの	認定子ども園は、地域ににおける子育て支援の機能を兼ね備えているものであり、必ず実施しなければならない。
必要/概ね必要	<input checked="" type="checkbox"/>	全部	子育てを孤立させず、親子の交流の場、相談、援助の場として必要である。
課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

	<input type="checkbox"/>	設定した目標値の達成状況	保育所入所児童が増加及び低年齢化する現状にあっても、利用数に大きな減少はなく、乳児の段階からの利用は増えている。
有効/概ね有効	<input checked="" type="checkbox"/>	ほぼ達成	多様化する親子の状況に適した交流の場の提供がなされている。
課題あり	<input type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

	<input type="checkbox"/>	判断の理由	保育所と併設していることから、備品、部品の共有の他、職員間も相互援助、連携をとり効率的に事業が進められている。
	<input type="checkbox"/>	事業費抑制	
	<input type="checkbox"/>	人員削減	
効率的/概ね効率的	<input type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減	
課題あり	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

(4)事務事業の公平性

	<input type="checkbox"/>	判断の理由	子育て支援の拠点として、関係機関と連携を図ることで、町内在住すべての乳幼児家庭を視野に入れ機能しているため、公平性は保たれている。
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
公平/概ね公平	<input checked="" type="checkbox"/>	受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/>	受益が一部に偏る	
公平でない	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

- A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
- B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
- C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
- D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
早い段階から親子と関わりをもつことで、教室への関心も高まり、母同士誘い合っでの参加が増えた。他者との交流を求める親子にとって、身近な存在となり、人をつなぐ役割を果たして困り感を気軽に相談できる関係を築いた。		

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持		
発達支援を視野に入れながら、孤立した育児による不安、負担解消、虐待防止のために子育て家庭とつながる立場を守り、関係機関と連携をもちながら、切れ目のない地域での子育て支援の充実を図っていく。		

※展開方向の区分

- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
- 終了 ○休止 ○廃止

第 6 期 雄武町総合計画 前期実施計画書兼事務事業評価調査

様式 1

No. 08010020

政策目標	2 【安心感の持てる福祉のまち・雄武】～保健・医療・福祉の充実～	会計区分	1 一般会計	【全体計画内容】※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	8 子育て・子育ての充実	事業優先度	B	
単位施策	2 地域ぐるみの子育て支援	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)	
事業名	入所児童通所事業	見直し年度		
事業期間	平成30年度～平成34年度	担当課	8 保育所	
事業主体	雄武町	関係課	#N/A	
事業指標	運行便数	ハード/ソフト事業区	#N/A	
事業目標	2便	関係例規・法令名	2 ソフト事業	
町民参加	無	関係個別計画名	有 雄武町保育所通所バス運行管理及び利用に関する要綱	
町民協働				

全 体 計 画		平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度
事 業 内 容		事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容
計 画 内 容	運転業務委託 運行車両燃料代 運行車両車検代 運行車両購入	幌内方面車両(ワゴン車)購入 運転業務委託 車両燃料代 車両車検代(バス)	運転業務委託 車両燃料代 車両車検代(バス)	運転業務委託 車両燃料代 車両車検代(バス)	運転業務委託 車両燃料代 車両車検代(バス、ワゴン)	運転業務委託 車両燃料代 車両車検代(バス)
	事業費(千円)	25,075	7,845	4,245	4,245	4,495
計 画 事 業 費	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
	その他	0				
一般財源	25,075	7,845	4,245	4,245	4,495	4,245
実 績 事 業 費	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	1,524				
	地方債	0				
	その他	0				
一般財源	6,513	8,037	0	0	0	0
関 連 事 項	特定財源の名称		(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)
	【評価・実績】	児童送迎バスの運行 2便 ワゴン車1台購入(幌内方面用)	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果
	第5期計画からの継続	年度目標値	2便	2便	2便	2便
		年度達成率	102%	0%	0%	0%
	後期計画への継続	全体達成率	32%	32%	32%	32%
	備考欄					

事業名	入所児童通所事業	評価者 管理職 職氏名	保育所長	大水 麻理
		評価者 作成者 職氏名	主事	淡路 尊至

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	幌内、沢木及び魚田からの保育所入所児童(満3歳以上)	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	・送迎の便数		
【抱える課題やニーズは】	統合により保育所廃止地域となった地区の入所児童の通所手段の確保	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値		
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	遠距離通所に係る安全な送迎	①	送迎の便数	目標年度	平成30年度
			目標値	2便	
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	通所に係る安全な送迎と保護者の負担軽減	②	実績値	2便	
			達成度	#DIV/0! %	
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	保育所職員による送迎バスへの添乗	今年度から2方向の車両に登降時ともに保育士及びその他職員による添乗を開始し、走行中の児童の安全確保を行なった。			
	送迎に係る運転業務の民間委託	送迎に係る車両の運転業務を専門知識、技能を有する民間業者に委託し安全な運行を実現している。			

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要/概ね必要 /課題あり	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	・保育所廃止時の地域住民との確約事項であり、利用希望者が存在する限り必要な事業である。(事業の終了年限を明示していないため)・車両の更新により安全な運行が可能になった。
	<input type="checkbox"/>	全部	
	<input checked="" type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効/概ね有効 /課題あり	設定した目標値の達成状況	当該地域の保護者にとっての送迎において時間的、経費的に負担軽減となっている。また、職員の添乗により乗車時の児童の安全確保をより高める取り組みとなっている。
	<input checked="" type="checkbox"/>	達成
	<input type="checkbox"/>	ほぼ達成
	<input type="checkbox"/>	下回る

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的/概ね効率的 /課題あり	判断の理由	運転業務を民間委託することにより専門技術者の人件費コスト、リスク抑制につながっており、安全な運行が可能となっている。保護者、保育所、委託業者との連絡体制も順調に行なわれており効率的に実施されている。
	<input type="checkbox"/>	事業費抑制
	<input checked="" type="checkbox"/>	人員削減
	<input checked="" type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減
	<input checked="" type="checkbox"/>	その他

(4)事務事業の公平性

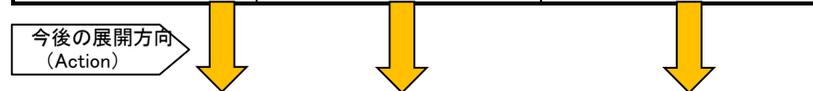
公平/概ね公平 /公平でない	判断の理由	乗車による利用者負担なく無償で実施しており概ね公平性を保っている。
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある
	<input checked="" type="checkbox"/>	受益者負担がない
	<input type="checkbox"/>	受益が一部に偏る
	<input type="checkbox"/>	その他

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A～D】

- A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
- B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
- C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
- D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
保育所閉所地域の住民にとって通所における時間的、経済的支援となっているため事業の目的は達成されている。職員の添乗開始により安全性が向上した。		



継続/現状維持		
今後満3歳を迎える児童の保護者からも乗車希望があるため引き続き実施が必要となる。		

※展開方向の区分

- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
- 終了 ○休止 ○廃止

第 6 期 雄武町総合計画 前期実施計画書兼事務事業評価調書

様式 1

No. 08010030

政策目標	2	【安心感の持てる福祉のまち・雄武】～保健・医療・福祉の充実～	会計区分	1	一般会計	【全体計画内容】※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	8	子育て・子育ての充実	事業優先度	B		
単位施策	2	地域ぐるみの子育て支援	政策事務分類	2	単独自治事務(個別計画)	
事業名	一時預かり事業		見直し年度			
事業期間	平成30年度～平成34年度		担当課	8	保育所	
事業主体	雄武町		関係課	#N/A		
事業指標	利用延べ人数		関係課	#N/A		
事業目標	年間延べ250人		ハード/ソフト事業区分	2	ソフト事業	
町民参加	無		関係例規・法令名	有	雄武町一意預かり事業実施要綱	
町民協働			関係個別計画名	有	雄武町子ども・子育て支援事業計画	

全体計画 事業内容		平成 30 年度 事業内容	平成 31 年度 事業内容	平成 32 年度 事業内容	平成 33 年度 事業内容	平成 34 年度 事業内容
計 画 内 容	緊急時における保育対応	一時預かりの受け入れ	一時預かりの受け入れ	一時預かりの受け入れ	一時預かりの受け入れ	一時預かりの受け入れ
	事業費(千円)	5,000	1,000	1,000	1,000	1,000
計 画 事 業 費	財源内訳					
	国庫支出金	1,250	250	250	250	250
	道支出金	1,250	250	250	250	250
	地方債	0				
	その他	1,250	250	250	250	250
実 績 事 業 費	財源内訳					
	国庫支出金	410	410			
	道支出金	342	342			
	地方債	0				
	その他	597	597			
関 連 事 項	特定財源の名称	【評価・実績】	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)
	一時預かり使用料		一時預かり保育実施			
	子ども・子育て支援交付金		(延べ人数 459人)			
	北海道子ども・子育て交付金					
			※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果
	第5期計画からの継続	年度目標値	年間250人	年間250人	年間250人	年間250人
	後期計画への継続	年度達成率	169%	0%	0%	0%
	全体達成率	34%	34%	34%	34%	
	備考欄					

事業名	一時預かり事業	評価者 管理職 職氏名	保育所長	大水 麻理
		評価者 作成者 職氏名	児童保育係長	斉藤 智美

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	就学前児童	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	利用人数
【抱える課題やニーズは】	各家族化が進み、一時的に子どもを預けられる環境が減少している。	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	保護者の緊急時に一時的な子どもを受入れることが出来る支援。また、育児疲れ等による保護者の心的、身体的負担軽減を図る。	① 年間利用延べ人数	目標年度 平成30年度
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	保育環境及び専属の人員を配置した安全なスペースでの預かりを実施し乳幼児を持つ保護者の子育て環境を維持する。		目標値 250人
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	一時的な保育所受入れ	保護者の緊急な所用、不定期な就労、通院、疾病により子どもの保育ができない場合、保護者の育児支援のために一時的に受け入れをする。	達成度 183.6%
			②
			目標値 〇〇
			実績値 〇〇
			達成度 #DIV/0!%

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

	<input checked="" type="checkbox"/>	義務的なもの	保育規則、一時預かり事業実施要綱により、本町の子育て支援政策の一環として実施している。核家族化が進む現代では緊急時、一時的に子どもを預けられる環境が乏しいため本事業の実施は必要である。
必要/概ね必要/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/>	全部	
	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

		設定した目標値の達成状況	年間を通して短時間就労のため定期的な利用や短時間保育児の午後からの利用も多く利用者数が増加した。職員の配置等受け入れ体制を整えて申し込みほぼ全てに対応し、保護者の育児支援につながった。
有効/概ね有効/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/>	達成	
	<input type="checkbox"/>	ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上的コストを下げる工夫をしたか)

		判断の理由	保育所内に一時預かり室を完備し受入れを行っており、代替保育士の人的確保、予算措置等効果的に対応できた。
効率的/概ね効率的/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/>	事業費抑制	
	<input type="checkbox"/>	人員削減	
	<input type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減	
	<input type="checkbox"/>	その他	

(4)事務事業の公平性

		判断の理由	保育所入所要件を満たさない家庭においても一時的な預かりに対応する。利用料は時間や食事の有無で区分し設定しているため負担割合は公平である。
公平/概ね公平/公平でない	<input checked="" type="checkbox"/>	受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/>	受益が一部に偏る	
	<input type="checkbox"/>	その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

- A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
- B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
- C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
- D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
今年度は認定こども園になってから1番の利用者数となった。年間を通して短期就労での利用や学校行事、通院などで利用する家庭が多かった。児童にとって負担なく過ごせるように個別対応をとった。本事業は保護者に浸透してきており、育児負担軽減や就労対策につながっている。		

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持		
一時的に預けられる機関が他にないため、保護者には必要不可欠な事業である。毎年利用者数に変動はあるものの、保護者の多様なニーズに対応できるように受入体制を整えて今後も継続して事業を進めていきたい。		

- ※展開方向の区分
継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
終了 休止 廃止

第 6 期 雄武町総合計画 前期実施計画書兼事務事業評価調書

様式 1

No. 08010040

政策目標	2 【安心感の持てる福祉のまち・雄武】～保健・医療・福祉の充実～	会計区分	1 一般会計	【全体計画内容】※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	8 子育て・子育ての充実	事業優先度	B	
単位施策	2 地域ぐるみの子育て支援	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)	
事業名	保育所地域活動事業	見直し年度		
事業期間	平成30年度～平成34年度	担当課	8 保育所	
事業主体	雄武町	関係課	#N/A	
事業指標	利用延べ人数	関係例規・法令名	#N/A	
事業目標	1200人	関係個別計画名	無	
町民参加	有			
町民協働	地域住民、主に高齢者、町内小中高校生との交流			

全体計画 事業内容		平成 30 年度 事業内容	平成 31 年度 事業内容	平成 32 年度 事業内容	平成 33 年度 事業内容	平成 34 年度 事業内容
計 画 内 容	保育所地域活動事業	高齢者、小学生との交流事業 地域子育て家庭への育児情報提	高齢者、小学生との交流事業 地域子育て家庭への育児情報提	高齢者、小学生との交流事業 地域子育て家庭への育児情報提	高齢者、小学生との交流事業 地域子育て家庭への育児情報提	高齢者、小学生との交流事業 地域子育て家庭への育児情報提
	事業費(千円)	2,750	550	550	550	550
計 画 事 業 費	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
	その他	0				
一般財源	2,750	550	550	550	550	
実 績 事 業 費	事業費(千円)	427	427	0	0	0
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
その他	0					
一般財源	427	427				
関 連 事 項	特定財源の名称		(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)
	【評価・実績】		高齢者、小学生、高校生との 世代間交流の実施 育児に関する情報提供等実施 (保育懇談会、親子レクリエーション) (実績: 1,625人) ※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果
	第5期計画からの継続	年度目標値	1200人	1200人	1200人	1200人
		年度達成率	78%	0%	0%	0%
	後期計画への継続	全体達成率	16%	16%	16%	16%
		備考欄				

事業名	保育所地域活動事業	評価者 管理職 職氏名	保育所長	大水 麻理
		評価者 作成者 職氏名	児童保育係長	斉藤 智美

様式1
平成30年度実施
平成31年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	入所児・保護者・子育て中の親	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	
【抱える課題やニーズは】	保育所は他の世代と接する機会や町民が保育の様子を見る場がない。	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	地域住民との交流、行事への参加者の確保と保育内容が見られる環境づくり。	① 延べ参加人数	目標年度 平成30年度
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果＝目的	他の世代や町民との交流を通して特に就学前年長児の自覚と意欲を育てるとともに、広く町民に保育現場を知ってもらう機会を作る。		目標値 1200人
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	世代間交流	②	達成度 135.4%
	地域子育て家庭への育児支援		目標年度 平成30年度
			目標値 〇〇
			実績値 〇〇
			達成度 #DIV/0!%
	長寿クラブの保育所生活発表会への出演、保育所年長児の長寿クラブ誕生会での遊戯披露等相互訪問を実施。また、小学生、高校生の保育所訪問や就労体験等で交流を深めた。今年度は中学生のインターンシップや雄武高校ボランティア同好会の活動がなく交流がなかったのが残念であった。		
	入所児の保護者には懇談会や保育所行事(親子レク、運動会、生活発表会)で子どもたちの成長を伝えるとともに保護者同士の交流の場となった。また、地域活動では保育所開放日を設定し、日常の保育現場の見学や児童との交流の場を設け、保育所への理解を深めてもらった。		

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	核家族化が進む、世代間交流は児童の育成に大きな役割を持つとともに、保護者のみならず地域全体で子育て支援として効果が高い。
必要/概ね必要/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/>	全部	
	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

	<input type="checkbox"/>	設定した目標値の達成状況	保育所以外での活動や異年齢との交流は入所児にとって保育士以外と関わることのできる貴重な体験となっていて、楽しみにしている活動である。また、学生においては就労体験を通し保育士の仕事に関心を持ちその後の進路に選択するケースも増えている。
有効/概ね有効/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/>	達成	
	<input type="checkbox"/>	ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上的コストを下げる工夫をしたか)

	<input type="checkbox"/>	判断の理由	教材等についてはできるだけ他の事業と併用が図られるよう工夫し、コスト削減に努めた。
	<input checked="" type="checkbox"/>	事業費抑制	
	<input type="checkbox"/>	人員削減	
効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減	
	<input type="checkbox"/>	その他	

(4)事務事業の公平性

	<input type="checkbox"/>	判断の理由	長寿クラブ員や施設利用者、保護者など事業ごとに対象範囲を明確にすることにより公平性を保つ。
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
公平/概ね公平/公平でない	<input type="checkbox"/>	受益が一部に偏る	
	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A～D】

- A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
- B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
- C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
- D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
今年度は中学生との交流や高校ボランティア同好会との交流ができなかったが、小学生との交流が多くてたり、支援センター利用者と保育所児童との交流も増えた。地域の方々や子育て家庭においては行事等で保育所の様子を伝えたり情報提供を行った。保護者には情報交換の場になっており育児支援につながった。		

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持		
子どもたちにとって家族や保育士以外の異世代との交流は社会性を養う良い機会となっており、今後も継続して実施していく。保護者や地域の子育て家庭においては交流の場を設け、情報発信を行い地域に開かれた子育て支援を行っていく。		

※展開方向の区分

- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
- 終了 ○休止 ○廃止

第 6 期 雄武町総合計画 前期実施計画書兼事務事業評価調書

様式 1

No. 08010050

政策目標	2	【安心感の持てる福祉のまち・雄武】～保健・医療・福祉の充実～	会計区分	1	一般会計	【全体計画内容】※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	8	子育て・子育ての充実	事業優先度	B		
単位施策	2	地域ぐるみの子育て支援	政策事務分類	3	単独自治事務(その他)	
事業名	保育所給食調理業務委託事業		見直し年度			
事業期間	平成30年度～平成34年度		担当課	8	保育所	
事業主体	雄武町		関係課	#N/A		
事業指標	委託契約数		関係課	#N/A		
事業目標	1契約		ハード/ソフト事業区	2	ソフト事業	
町民参加	無		関係例規・法令名	無		
町民協働			関係個別計画名	無		

全体計画 事業内容		平成 30 年度 事業内容	平成 31 年度 事業内容	平成 32 年度 事業内容	平成 33 年度 事業内容	平成 34 年度 事業内容
計 画 内 容	保育所給食調理業務の委託	給食調理委託	給食調理委託	給食調理委託	給食調理委託	給食調理委託
	事業費(千円)	111,750	22,350	22,350	22,350	22,350
計 画 事 業 費	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
	その他	22,500	4,500	4,500	4,500	4,500
一般財源	89,250	17,850	17,850	17,850	17,850	
実 績 事 業 費	事業費(千円)	20,287	20,287	0	0	0
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
その他	1,714	1,714				
一般財源	18,573	18,573				
関 連 事 項	特定財源の名称		(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)
	保育料	【評価・実績】	調理業務委託の実施			
	保育所職員等給食費負担金					
			※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果
	第5期計画からの継続	年度目標値	1契約	1契約	1契約	1契約
	年度達成率	91%	0%	0%	0%	
後期計画への継続	全体達成率	18%	18%	18%	18%	
	備考欄					

事業名	保育所給食調理業務委託事業	評価者 管理職 職氏名	保育所長	大水麻理
		評価者 作成者 職氏名	主事	淡路至尊

様式1
平成30年度実施
平成31年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	保育所児童及び職員	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	給食提供に係る業務委託件数	
【抱える課題やニーズは】	給食提供に係る調理業務の効率化及び職員の労務管理	指標(指標計算式/解説)	指標値及び実績値	
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	安心安全な給食提供体制の確保	① 委託契約件数	目標年度	平成30年度
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	業務を民間委託することにより専門知識、ノウハウを活かした安定した給食提供実施と人的配置の確保		目標値	1 契約
			実績値	1 契約
			達成度	100.0 %
		②	目標年度	平成30年度
			目標値	〇〇
			実績値	〇〇
			達成度	#DIV/0! %
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	給食調理業務の民間委託	昼食、おやつ、行事食、離乳食、アレルギー食、食育及び施設の一部清掃等の業務委託		
	給食業務委託職員と保育所との定期的会議	町の管理栄養士を含む保育所職員と委託業者職員(栄養士、調理員)との給食会議を開催し、給食全般の評価、検討を実施(毎月1回)		

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	保育所における給食提供は必須であり、成長期の乳幼児期の食の確保、栄養管理等細心の配慮が必要となる。専門業者に委託することで安心、安全な管理運営が実現できる。
必要/概ね必要/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/>	全部	
	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

		設定した目標値の達成状況	専門知識に基づいた給食内容や食物アレルギーなど個々に合わせた臨機応変な対応が実施され、かつ衛生管理等も徹底されている。
有効/概ね有効/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/>	達成	
	<input type="checkbox"/>	ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上的コストを下げる工夫をしたか)

		判断の理由	業者の専任栄養士が常勤しており、日ごろの入所児の状況に即した対応がされている。必要に応じて保育士や保護者との協議も随時実施しており効率的な業務が実施されている。
	<input checked="" type="checkbox"/>	事業費抑制	
	<input checked="" type="checkbox"/>	人員削減	
効率的/概ね効率的/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減	
	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

(4)事務事業の公平性

		判断の理由	児童の給食に係る経費は保育料の一部に含まれている。職員については実費負担による現金納付で公平性が保たれている。
	<input checked="" type="checkbox"/>	受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
公平/概ね公平/公平でない	<input type="checkbox"/>	受益が一部に偏る	
	<input type="checkbox"/>	その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
今年度アレルギー対応を要する児童が12名と過去最多であったが、委託業者との連携により事故なく給食提供を実施できた。労務管理を含めて食の安全性、効率性が維持できた。		

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持		
専門業者の管理運営により安心安全な給食提供を継続していくため、今後も引き続き外部委託による実施をおこなっていく。		

※展開方向の区分

- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
- 終了 ○休止 ○廃止

第 6 期 雄武町総合計画 前期実施計画書兼事務事業評価調書

様式 1

No. 08010060

政策目標	2	【安心感の持てる福祉のまち・雄武】～保健・医療・福祉の充実～	会計区分	1	一般会計	【全体計画内容】※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	8	子育て・子育ての充実	事業優先度	A		
単位施策	2	地域ぐるみの子育て支援	政策事務分類	3	単独自治事務(その他)	
事業名	障がい児・低年齢児保育事業		見直し年度			
事業期間	平成30年度～平成34年度		担当課	8	保育所	
事業主体	雄武町		関係課	#N/A		
事業指標	障がい児・低年齢児保育所入所希望者受入れ		関係例規・法令名	#N/A		
事業目標	受入率100%		関係個別計画名	#N/A		
町民参加	無		関係例規・法令名	無		
町民協働			関係個別計画名	無		

全体計画 事業内容		平成 30 年度 事業内容	平成 31 年度 事業内容	平成 32 年度 事業内容	平成 33 年度 事業内容	平成 34 年度 事業内容
計 画 内 容	障がい児及び低年齢児受入に係る保育士及び補助職員の人員配置	障がい児及び低年齢児受入に対する保育士及び代替職員の加配 (臨時職員3人、代替2人)	障がい児及び低年齢児受入に対する保育士及び代替職員の加配 (臨時職員3人、代替2人)	障がい児及び低年齢児受入に対する保育士及び代替職員の加配 (臨時職員3人、代替2人)	障がい児及び低年齢児受入に対する保育士及び代替職員の加配 (臨時職員3人、代替2人)	障がい児及び低年齢児受入に対する保育士及び代替職員の加配 (臨時職員3人、代替2人)
	事業費(千円)	65,000	13,000	13,000	13,000	13,000
計 画 事 業 費	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
	その他	200	40	40	40	40
一般財源	64,800	12,960	12,960	12,960	12,960	
実 績 事 業 費	事業費(千円)	11,785	11,785	0	0	0
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
その他	23	23				
一般財源	11,762	11,762				
関 連 事 項	特定財源の名称		(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)
		【評価・実績】	低年齢児及び障がい児保育補助代替職員の加配			
			※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果
	第5期計画からの継続	年度目標値	受入率100%	受入率100%	受入率100%	受入率100%
	年度達成率	91%	0%	0%	0%	
後期計画への継続	全体達成率	18%	18%	18%	18%	
	備考欄					

事業名	障がい児・低年齢児保育事業	評価者 管理職 職氏名	保育所長	大水 麻理
		評価者 作成者 職氏名	児童保育係長	斉藤 智美

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	保育所入所児のうち障がい児及び低年齢児並びに保護者	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)									
【抱える課題やニーズは】	障がい児又はその疑いのある児童の増加及び家族構成又は家庭環境の変化による低年齢児入所希望者の増加に対する対応	指標(指標計算式/解説)	指標値及び実績値								
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	対象児童の受け入れにあたり個々の発達状況を見極め、より良い発達を促し安全な保育を実施するための必要な人員の配置及び体制の確保	① 障がい児受入れ数/希望者数×100	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>平成30年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>100人</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>100人</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>100.0%</td></tr> </table>	目標年度	平成30年度	目標値	100人	実績値	100人	達成度	100.0%
目標年度	平成30年度										
目標値	100人										
実績値	100人										
達成度	100.0%										
【その結果、どのような成果を実現したか】 ※成果=目的	十分な配慮のもと低年齢児、障がい児に係る保育と育児支援を実施する。	② 低年齢児受入れ数/希望者数×100	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>平成30年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>100人</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>100人</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>100.0%</td></tr> </table>	目標年度	平成30年度	目標値	100人	実績値	100人	達成度	100.0%
目標年度	平成30年度										
目標値	100人										
実績値	100人										
達成度	100.0%										
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	<table border="1"> <tr> <td>保育補助職員の加配</td> <td>障がい児及び低年齢児の入所に併いクラス担任のほかに職員を加配し、安全できめ細やかな保育を実施</td> </tr> <tr> <td>関係機関との連携と協働</td> <td>障がい児への適切な保育を実施するため、またその疑いがある場合に早期発見、就学に向けた支援のため保護者と連絡を密に行い、保健係、自立相談支援事業所、教育委員会、紋別市幼児療育センター等関係機関とも情報交換を行い、個々に合わせたきめ細やかな保育、育児支援を実施した。</td> </tr> <tr> <td>支援者学習会に参加(保育の質の向上)</td> <td>年2回来町する発達障害者支援道東地域きら星センター長丸山先生に支援者相談を行い、発達に気になる児童への関わり方を学んだ</td> </tr> </table>	保育補助職員の加配	障がい児及び低年齢児の入所に併いクラス担任のほかに職員を加配し、安全できめ細やかな保育を実施	関係機関との連携と協働	障がい児への適切な保育を実施するため、またその疑いがある場合に早期発見、就学に向けた支援のため保護者と連絡を密に行い、保健係、自立相談支援事業所、教育委員会、紋別市幼児療育センター等関係機関とも情報交換を行い、個々に合わせたきめ細やかな保育、育児支援を実施した。	支援者学習会に参加(保育の質の向上)	年2回来町する発達障害者支援道東地域きら星センター長丸山先生に支援者相談を行い、発達に気になる児童への関わり方を学んだ				
保育補助職員の加配	障がい児及び低年齢児の入所に併いクラス担任のほかに職員を加配し、安全できめ細やかな保育を実施										
関係機関との連携と協働	障がい児への適切な保育を実施するため、またその疑いがある場合に早期発見、就学に向けた支援のため保護者と連絡を密に行い、保健係、自立相談支援事業所、教育委員会、紋別市幼児療育センター等関係機関とも情報交換を行い、個々に合わせたきめ細やかな保育、育児支援を実施した。										
支援者学習会に参加(保育の質の向上)	年2回来町する発達障害者支援道東地域きら星センター長丸山先生に支援者相談を行い、発達に気になる児童への関わり方を学んだ										

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	障がいを持つ子どもや発達に不安のある子どもとその保護者に対する支援が求められている。共稼ぎ世帯の増加により低年齢児の入所増加に対する対応が必要。
必要/概ね必要/課題あり	<input type="checkbox"/>	全部	
	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

	<input type="checkbox"/>	設定した目標値の達成状況	すべての入所希望を受入れることができ、質の高い保育が実施できた。
有効/概ね有効/課題あり	<input type="checkbox"/>	達成	
	<input type="checkbox"/>	ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

	<input type="checkbox"/>	判断の理由	保育士及び補助職員の加配によりきめ細やかなでより安全性の高い保育が維持されている。日々の出席状況に合わせて代替職員の必要人数を調整し適正に配置している。
	<input type="checkbox"/>	事業費抑制	
	<input type="checkbox"/>	人員削減	
効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減	
	<input type="checkbox"/>	その他	

(4)事務事業の公平性

	<input type="checkbox"/>	判断の理由	障がい児及び低年齢児に対し適切な保育を実施することにより個別的な成長や発達が有効的に図られ、クラス全体の安定した保育につながる。
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
公平/概ね公平/公平でない	<input type="checkbox"/>	受益が一部に偏る	
	<input type="checkbox"/>	その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A～D】

- A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
- B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
- C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
- D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
今年度は0才児や1才児の途中入所が多かったが代替職員の加配により一人一人丁寧な保育を実施することができ、保護者の就労支援につなげることができた。また、個別に支援が必要な児童に対しても保護者や関係機関と情報交換を密に行い、細やかな保育を実施することができた。		

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持		
低年齢児の入所や個別に支援が必要な児童が増加傾向にある。受け入れ体制を整えて継続して実施していく。また保護者の子育て力向上のために関係機関と連携し育児支援を実施する。		

※展開方向の区分

- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
- 終了 ○休止 ○廃止

第 6 期 雄武町総合計画 前期実施計画書兼事務事業評価調書

様式 1

No. 08010070

政策目標	2	【安心感の持てる福祉のまち・雄武】～保健・医療・福祉の充実～	会計区分	1	一般会計	【全体計画内容】※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	8	子育て・子育ての充実	事業優先度	B		
単位施策	2	地域ぐるみの子育て支援	政策事務分類	3	単独自治事務(その他)	
事業名	保育所児童フッ化物洗口推進事業		見直し年度			
事業期間	平成30年度～平成34年度		担当課	8	保育所	
事業主体	雄武町		関係課	#N/A		
事業指標	児童実施率		関係課	#N/A		
事業目標	100%		ハード/ソフト事業区分	2	ソフト事業	
町民参加	無		関係例規・法令名	無		
町民協働			関係個別計画名	無		

全体計画 事業内容		平成 30 年度 事業内容	平成 31 年度 事業内容	平成 32 年度 事業内容	平成 33 年度 事業内容	平成 34 年度 事業内容	
計 画 内 容	入所児童を対象にフッ化洗口を実施することによりむし歯の発生を予防し健康な歯の育成を助長させ	フッ化物洗口の実施	フッ化物洗口の実施	フッ化物洗口の実施	フッ化物洗口の実施	フッ化物洗口の実施	
	実施対象児童 5歳児(年長組) 実施方法 週5回法によるフッ化物選鉱						
計 画 事 業 費	事業費(千円)	500	100	100	100	100	
	財 源 内 訳	国庫支出金	0				
		道支出金	0				
		地方債	0				
		その他	500	100	100	100	100
		一般財源	0				
実 績 事 業 費	事業費(千円)	28	28	0	0	0	
	財 源 内 訳	国庫支出金	0				
		道支出金	0				
		地方債	0				
		その他	28	28			
		一般財源	0				
関 連 事 項	特定財源の名称		(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	
	【評価・実績】		フッ化物洗口の実施 (年長児対象31人～週5回法)				
			※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	
	第5期計画からの継続	年度目標値	100%	100%	100%	100%	
	年度達成率	28%	0%	0%	0%		
後期計画への継続	全体達成率	6%	6%	6%	6%		
	備考欄						

事業名	保育所児童フッ化物洗口推進事業	評価者 管理職 職氏名	保育所長	大水麻理
		評価者 作成者 職氏名	主事	淡路至尊

様式1
平成30年度実施
平成31年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	保育所入所児のうち年長児	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	フッ化物洗口の実施児童
【抱える課題やニーズは】	歯の生え変わり時期における虫歯予防は、健康な歯の育成に重要である	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	主に永久歯の虫歯予防	① 実施児童数	目標年度 平成30年度
【その結果、どのような成果を実現したか】 ※成果=目的	虫歯予防による児童の健康で丈夫な歯の育成及び健康の保持増進		目標値 33人
			実績値 31人
			達成度 93.9%
		②	目標年度 平成30年度
			目標値 〇〇
			実績値 〇〇
			達成度 #DIV/0!%
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	フッ化物洗口の実施	年長児組(5歳児)を対象にフッ化物洗口液で朝、月曜日から金曜日までの週5回ブクブクうがいを実施	

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	北海道及び歯科医師等が推奨している取り組みであり、全道的に普及してきている。当町では小学校でも引き続き実施していることから児童にとっての習慣付けになっており、虫歯予防は生涯に向けた児童の歯及び健康維持に有効である。
必要/概ね必要	<input checked="" type="checkbox"/>	全部	
課題あり	<input checked="" type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

	<input type="checkbox"/>	設定した目標値の達成状況	入所説明会で保護者へ説明し、毎年度年長児保護者へは文書を配布し書面で同意を得て実施している。(今年度は33名のうち1名が拒否)
有効/概ね有効	<input checked="" type="checkbox"/>	達成	
課題あり	<input checked="" type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上的コストを下げる工夫をしたか)

	<input type="checkbox"/>	判断の理由	町内薬局の薬剤師により調査された洗口液を購入し、作業の軽減と安全な薬品管理もと実施することができた。
	<input type="checkbox"/>	事業費抑制	
	<input type="checkbox"/>	人員削減	
効率的/概ね効率的/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減	
	<input type="checkbox"/>	その他	

(4)事務事業の公平性

	<input type="checkbox"/>	判断の理由	実施による受益者負担はなく、希望した児童全員に実施することで公平性が保たれている。
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
	<input checked="" type="checkbox"/>	受益者負担がない	
公平/概ね公平/公平でない	<input type="checkbox"/>	受益が一部に偏る	
	<input type="checkbox"/>	その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
保育所委託歯科医師の指示のもと調剤薬局に薬品調合を依頼、保護者の同意を得た上で安全性に配慮し実施。虫歯予防の意識向上が図られた。		

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持		
保育所退所後小学校後も実施しているため、習慣付けが確立できている。今後も丈夫な歯の育成のため継続が必要である。		

※展開方向の区分

- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
- 終了 ○休止 ○廃止